

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	放課後等デイサービス キッズワンハート 石浜教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2026年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的に保護者様と面談をしている。その際、個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、環境整備に取り組むことで事業所の利用に関して安心感を持って頂けている。学校や他事業所とも連携を図っている。	保護者面談を通して児童の状況や家庭での様子を共有し、支援に反映できるよう努めている。また、児童一人ひとりに対して適切なアセスメントを行い、特性やその日の状態に応じた関わりや環境調整を行っている。学校や他事業所等の関係機関とも情報共有を行い、児童が安心して生活できるよう継続的な支援体制の構築に取り組んでいる。特に強度行動障害など支援ニーズの高い児童に対しては、対応方法の共有や統一を図りながら支援を行っている。	今後も保護者との定期的な面談や日々の情報共有を大切に、家庭での様子や児童の変化を支援に反映できるよう努めていく。また、学校や他事業所等の関係機関との連携をさらに強化し、児童の生活全体を踏まえた支援が行えるよう情報共有の充実を図る。
2	職員間で様々な資格を持っている職員がおるため多職種連携をして支援に努めている。	保育士や児童指導員の他にも、公認心理師、介護福祉士、社会福祉士、強度行動障害支援者養成研修(実践研修)といった資格を様々な職員が取得している。それぞれの専門的な視点を活かしながら職員間で情報共有や意見交換を行い、多職種で連携しながら児童への支援に取り組んでいる。	今後も職員それぞれの専門性を活かした多職種連携を大切にしながら、職員間での情報共有やケース検討の機会を充実させ、支援の質の向上に努めていく。 また、研修等を通して知識や支援技術の向上を図り、児童一人ひとりの特性に応じたより適切な支援が行える体制づくりを進めていく。
3	虐待防止BCPIに関する研修に参加したり、それぞれの専門性に合った研修に力を入れている。	虐待防止や事業継続計画(BCP)に関する研修に参加し、職員の意識向上や知識の習得に努めている。また、それぞれの職員の専門性や役割に応じた研修への参加を推進し、支援の質の向上につながるよう取り組んでいる。 研修で得た知識については職員間で共有し、日々の支援に活かせるよう意識している。	今後も虐待防止や事業継続計画(BCP)に関する理解を深めるため、継続的に研修へ参加するとともに、職員間での情報共有や振り返りを行い、支援体制の強化を図っていく。 また、職員それぞれの専門性に合った研修への参加を継続し、知識や支援技術の向上に努めることで、児童一人ひとりに応じたより適切な支援が行えるよう取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館など、地域の子どもたちとの交流の機会が十分に設けられていない。	児童一人ひとりの特性や支援ニーズに配慮した支援を行う必要があることや、日々の活動の中で安全面への配慮を優先していることから、地域の子どもたちとの交流の機会を設けることが難しい状況があるためと考えられる。	様々な公園に積極的に行き交流できる機会を増やし、自然な流れで関われる機会を増やしていく。地域の行事やイベント等への参加も含め、無理のない範囲で地域との関わりを広げていけるよう取り組んでいきたい。
2	父母の会の活動や保護者会等の開催が十分に行われていない。	保護者の就労状況や家庭の事情により参加が難しい場合があることや、日々の送迎時の情報共有を中心としているため、保護者同士が交流する機会を設けることが難しい状況がある。一方で、事業所の日々の様子や取り組みについてはSNSを活用して発信を行っており、保護者への情報提供には一定の工夫をしている。	今後は保護者の負担にならない形での交流の機会について検討するとともに、SNSを含めた情報発信を継続し、保護者への理解や安心感の向上に努めていく。また、行事や活動の中で保護者同士が関わる機会を設けるなど、状況に応じた形で保護者の関わりを広げていけるよう取り組んでいきたい。
3	活動プログラムを固定化されてしまう事が多い。	支援ニーズの高い児童に対応するため、安全面や落ち着いた環境の維持を優先して活動を行うことが多く、結果としてプログラムが固定化されやすい。また、職員間で活動内容の柔軟な変更や工夫を共有する時間が十分に確保できていないことも要因と考えられる。	今後は、児童の興味や状態に応じて活動内容を柔軟に変更できる工夫を行うとともに、職員間でプログラムの改善や代替案を共有する機会を増やすことで、固定化の解消に取り組む。また、強度行動障害の児童への対応を考慮しつつも、安全に配慮しながら活動の幅を広げ、児童が主体的に参加できる環境づくりを進めていく。